

札幌市

高齢社会に関する意識調査

報告書（概要版）

目次

1	「高齢社会に関する意識調査」の概要	1
2	住まい・家族構成等	2
3	交流と活動	7
4	心身の状況	13
5	保健・福祉施策	17

1

高齢社会に関する意識調査の概要

〔調査の目的〕

本調査は、幅広い世代の方々の高齢社会に対する意識や高齢者福祉施策全般に関する考え方を把握・整理し、平成 30 年度を始期とする新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定や各高齢者施策、介護保険事業の実施に当たっての基礎資料とすることを目的として実施した。

〔調査対象〕

平成 28 年 11 月 1 日現在、札幌市内に在住する 65 歳以上の市民 3,500 人、40～64 歳の市民 1,500 人の計 5,000 人を無作為に抽出した。

〔調査方法〕

郵送による調査票の発送・回収。

〔調査期間〕

平成 28 年 11 月 8 日 ～ 平成 28 年 11 月 25 日（調査基準日：平成 28 年 11 月 1 日）

〔回収状況〕

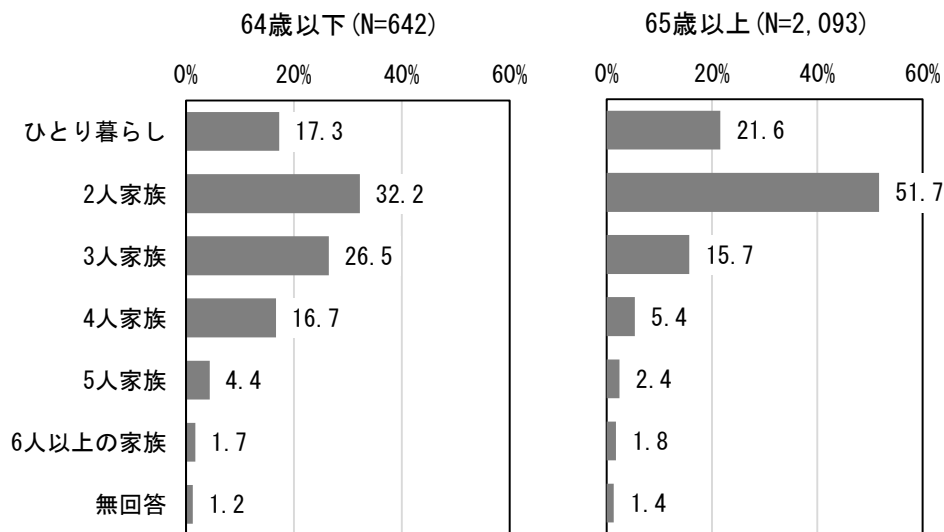
発送数	5,000 件
回収数	2,818 件 (57.0%)
有効回収数	2,815 件 (56.9%)

2

住まい・家族構成等

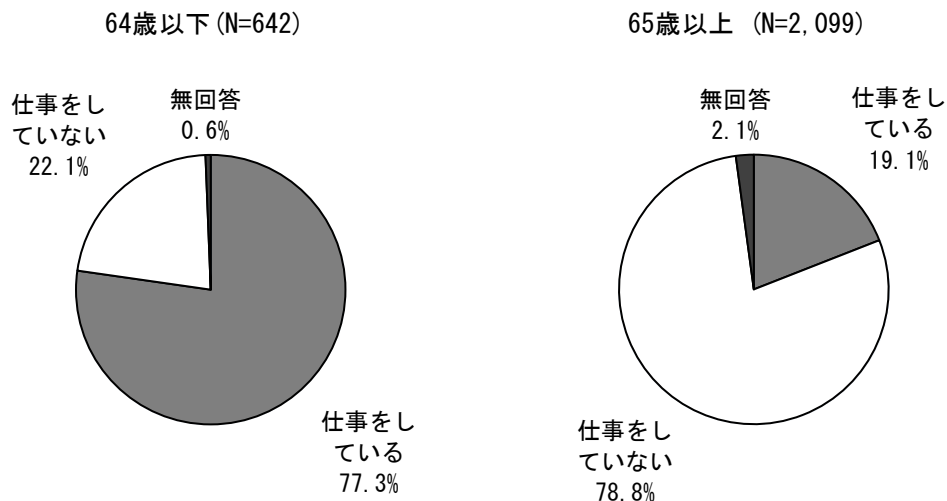
◆ 家族構成

本人を含む同居家族の人数についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「2人家族」が最も多く、64歳以下は32.2%、65歳以上は51.7%となっている。次いで、64歳以下は「3人家族」(26.5%)、「ひとり暮らし」(17.3%)となっており、65歳以上は、「ひとり暮らし」(21.6%)、「3人家族」(15.7%)となっている。



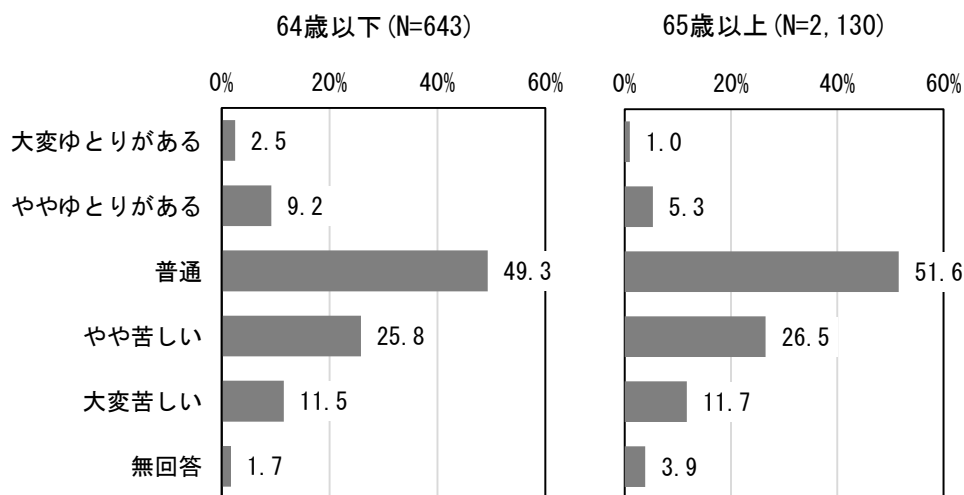
◆ 就労状況

現在の就労状況は、64歳以下は「仕事をしている」が77.3%、「仕事をしていない」が22.1%となっており、65歳以上は「仕事をしている」が19.1%、「仕事をしていない」が78.8%となっている。



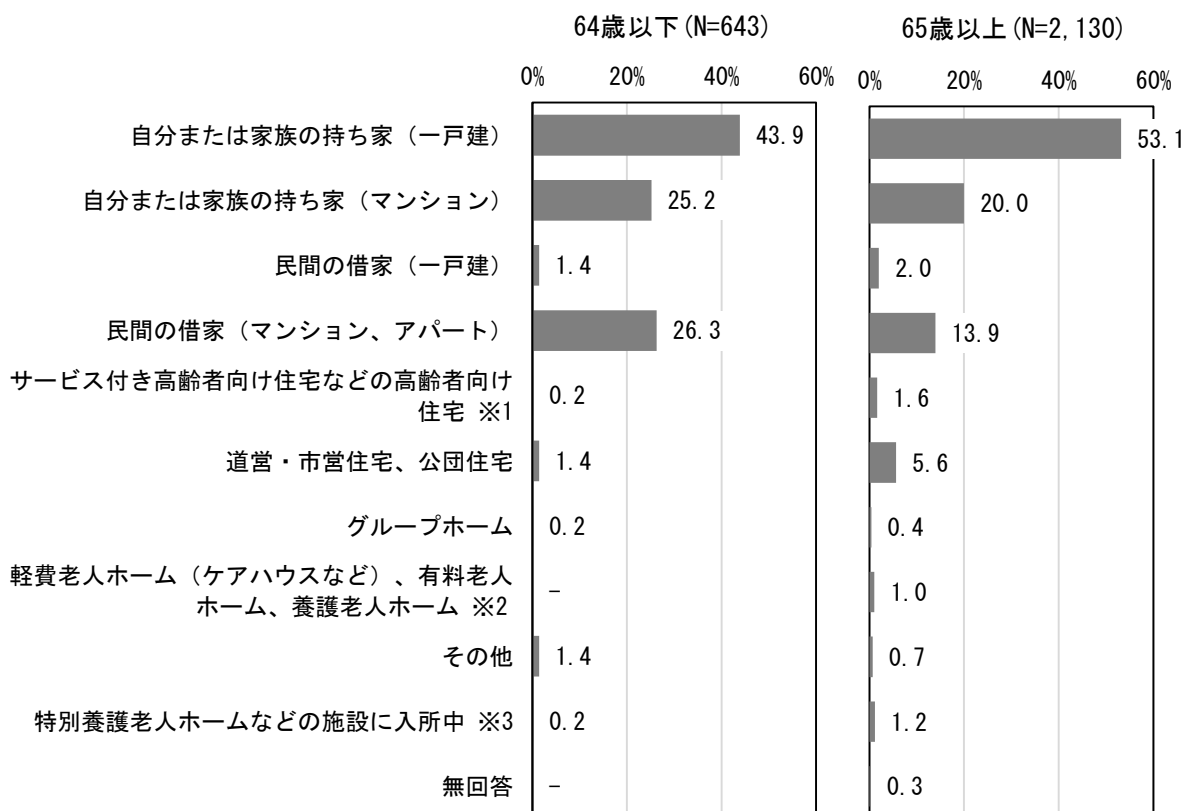
◆ 経済的ゆとり感

現在の暮らしは、経済的にゆとりがあるかについてたずねたところ、「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」を合わせた割合が、64歳以下は11.7%、65歳以上は6.3%となっている。一方、「やや苦しい」「大変苦しい」を合わせた割合は、64歳以下は37.3%、65歳以上は38.2%となっている。



◆ 現在の生活場所

現在の生活場所は、64歳以下・65歳以上共に、「自分または家族の持ち家（一戸建）」が最も多く、64歳以下は43.9%、65歳以上は53.1%となっている。次いで、64歳以下は「民間の借家（マンション、アパート）」（26.3%）、「自分または家族の持ち家（マンション）」（25.2%）となっており、65歳以上は「自分または家族の持ち家（マンション）」（20.0%）、「民間の借家（マンション、アパート）」（13.9%）となっている。



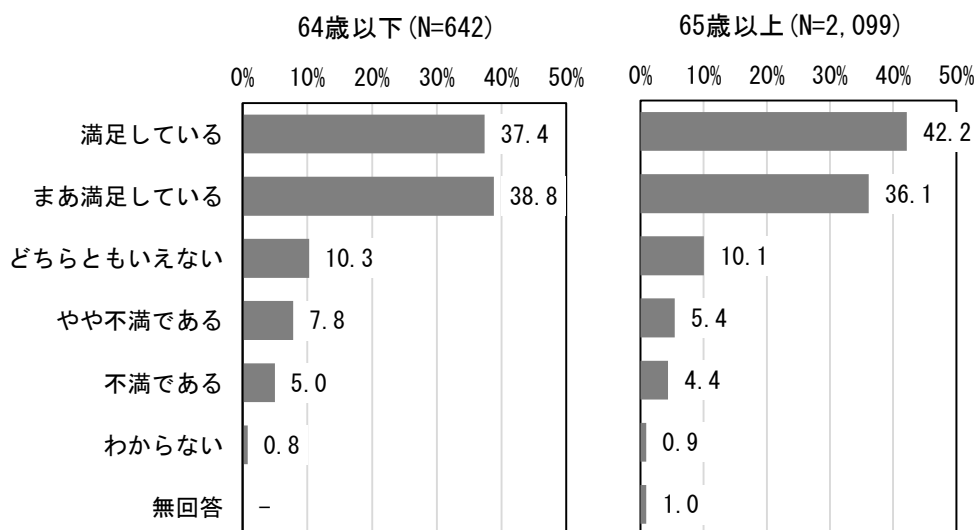
※1 「サービス付き高齢者向け住宅」とは、安否確認や生活相談サービスなど、高齢者を支援するサービスを提供するバリアフリー構造の住宅をいう。

※2 「軽費老人ホーム」とは、自立した日常生活を営むことに不安のある、家族の援助を受けることが困難な方が入所する施設であり、ケアハウス、A型、B型の3種類がある。

※3 「施設」には、老人保健施設や病院を含む。

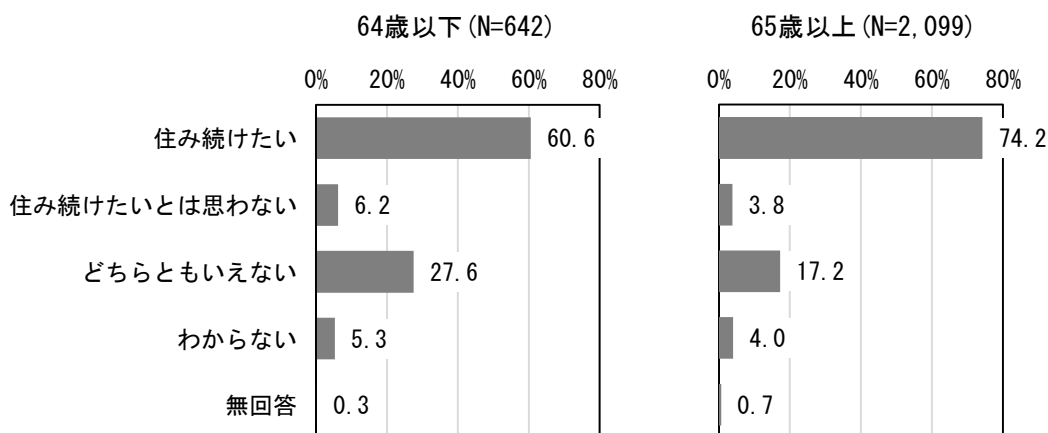
◆ 現在の住まいに対する満足度

現在の住まいに対する満足度についてたずねたところ、「満足している」「まあ満足している」を合わせた割合が、64歳以下は76.2%、65歳以上は78.3%となっている。一方、「やや不満である」「不満である」を合わせた割合は、64歳以下は12.8%、65歳以上は9.8%となっている。



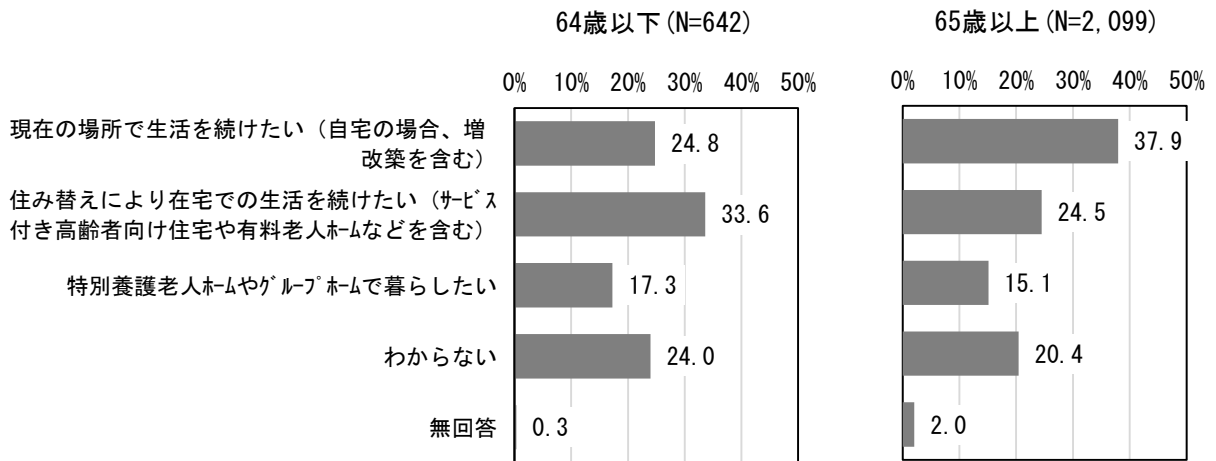
◆ 現在住んでいる地域に住み続けたいか

今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うかをたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「住み続けたい」が最も多く、64歳以下は60.6%、65歳以上は74.2%となっている。一方、「住み続けたいとは思わない」は、64歳以下は6.2%、65歳以上は3.8%となっている。



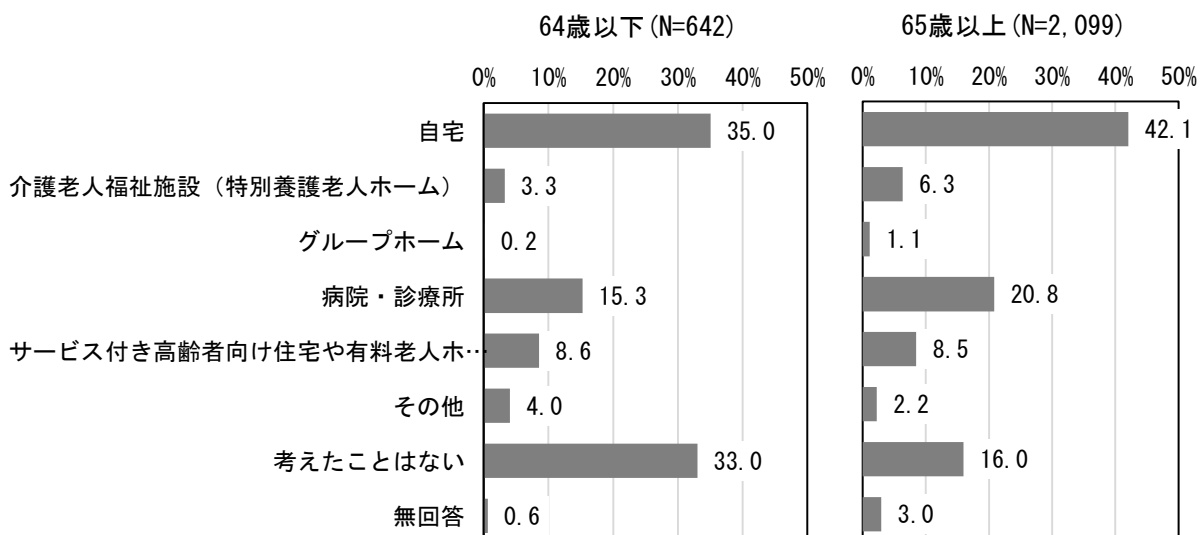
◆ 体が弱くなった場合の生活場所

身体が弱くなった場合の生活場所についてたずねたところ、64歳以下は「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」（33.6%）が最も多く、次いで、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」（24.8%）となっており、65歳以上は、「現在の場所で生活を続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」（37.9%）が最も多く、次いで、「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」（24.5%）となっている。



◆ 最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「自宅」が最も多く、64歳以下は35.0%、65歳以上は42.1%となっている。次いで、64歳以下は、「病院・診療所」（15.3%）、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」（8.6%）となっており、65歳以上は、「病院・診療所」（20.8%）、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」（8.5%）となっている。「考えたことはない」の割合は、64歳以下は33.0%、65歳以上は16.0%となっている。

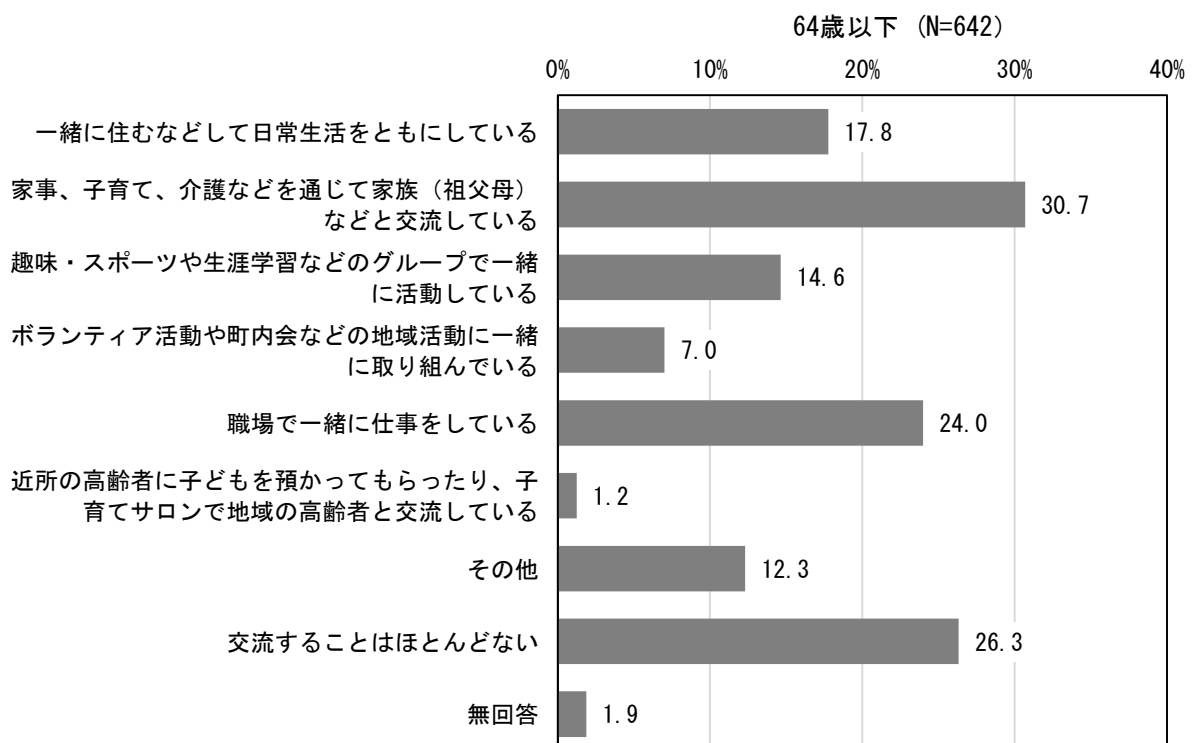


◆ 他の世代との交流

(複数回答)

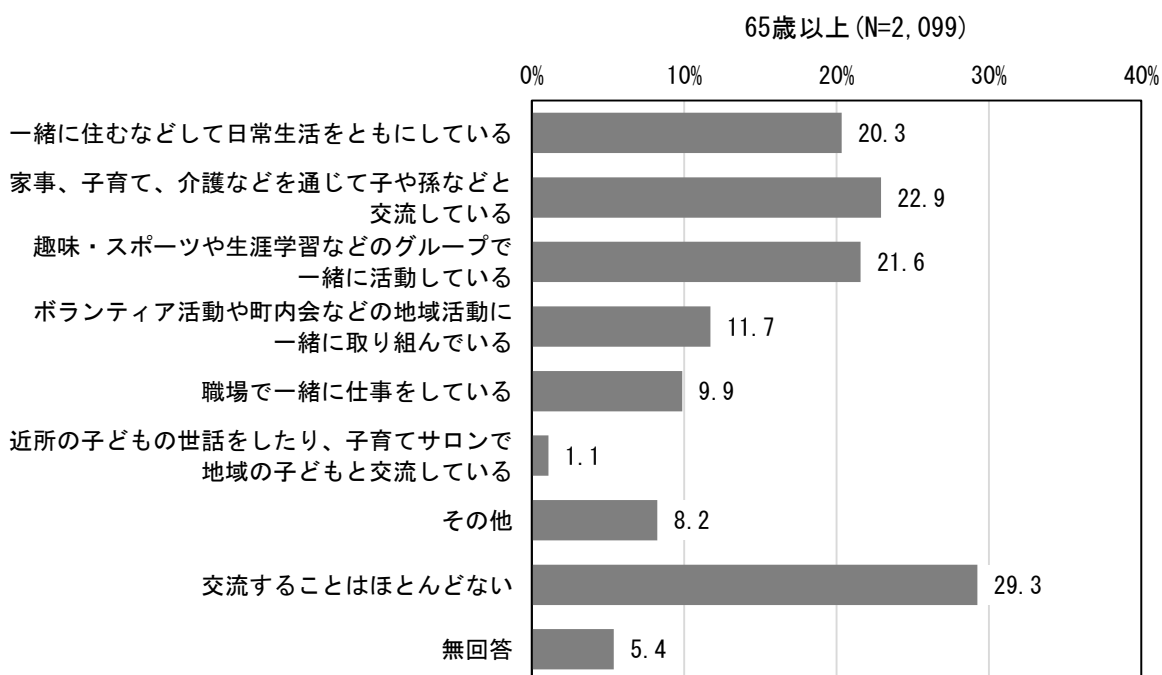
【64歳以下】

64歳以下の方に、65歳以上の人たちと交流はあるかをたずねたところ、「家事、子育て、介護などを通じて家族（祖父母）などと交流している」（30.7%）が最も多く、次いで、「職場で一緒に仕事をしている」（24.0%）、「一緒に住むなどして日常生活をともにしている」（17.8%）となっている。一方、「交流することはほとんどない」は、26.3%となっている。



【65歳以上】

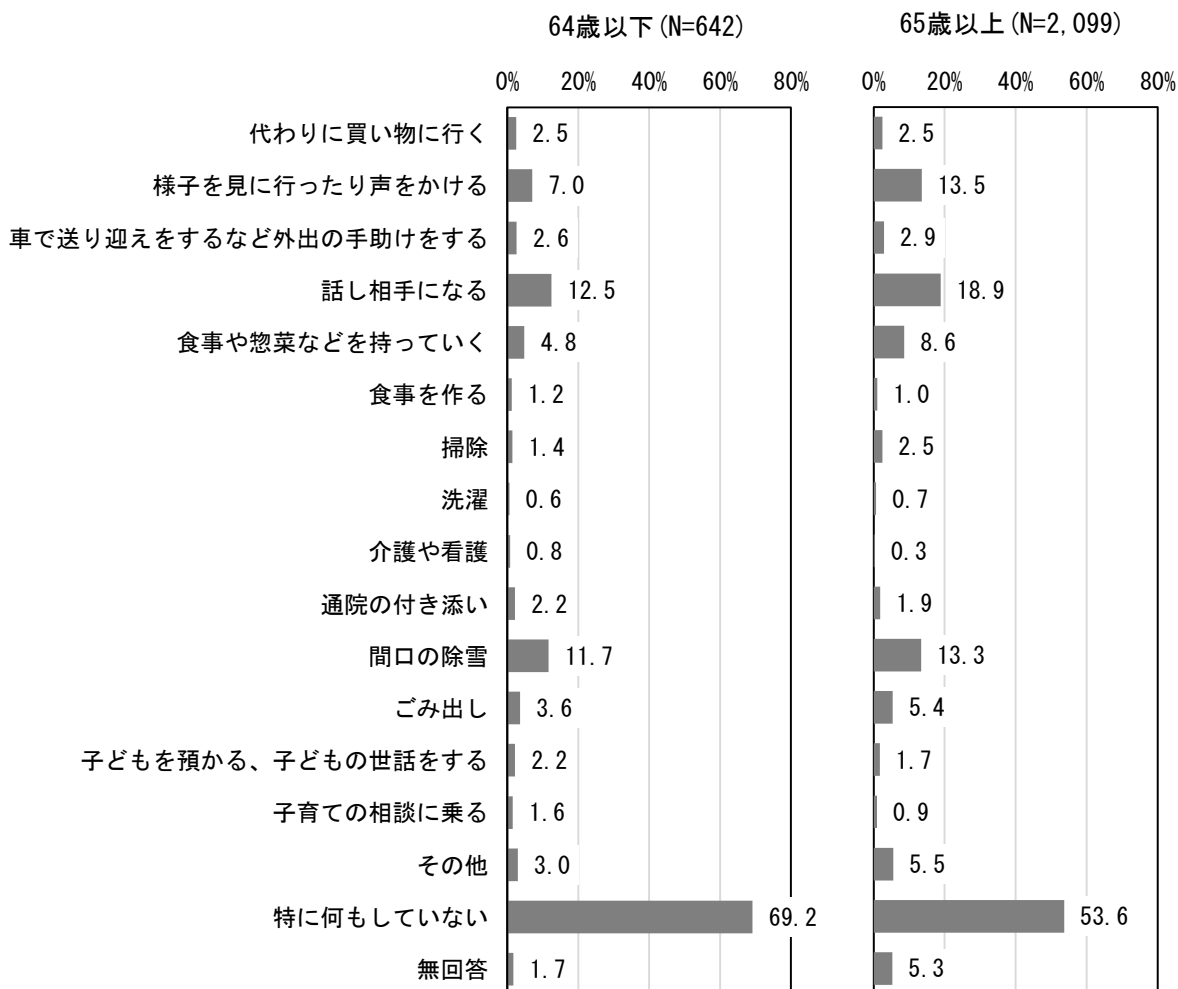
65歳以上の方に、若者や子どもなど、若い世代の人たちと交流はあるかをたずねたところ、「家事、子育て、介護などを通じて子や孫などと交流している」(22.9%)が最も多く、次いで、「趣味・スポーツや生涯学習などのグループで一緒に活動している」(21.6%)、「一緒に住むなどして日常生活をともにしている」(20.3%)となっている。一方、「交流することはほとんどない」は、29.3%となっている。



◆ 近所への手伝いの内容

(複数回答)

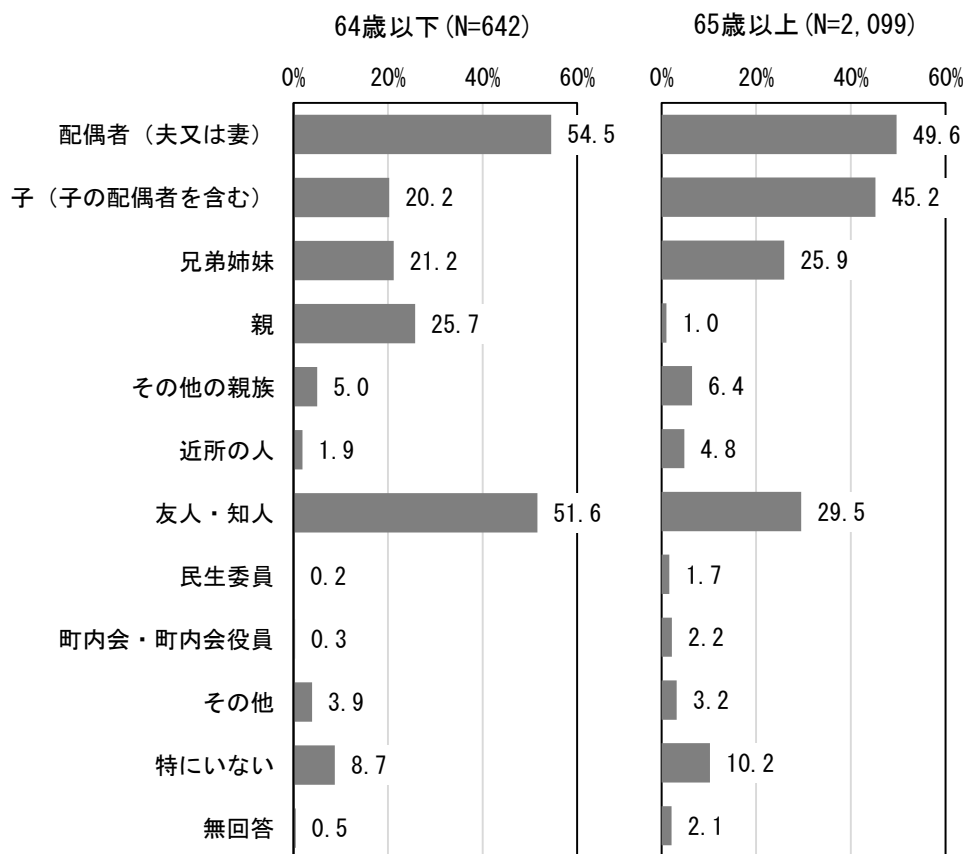
現在住んでいる地域の中で、近所の方にどのような手伝いをした経験があるかをたずねたところ、64歳以下は「話し相手になる」(12.5%)が最も多く、次いで、「間口の除雪」(11.7%)、「様子を見に行ったり声をかける」(7.0%)となっており、65歳以上は、「話し相手になる」(18.9%)が最も多く、次いで、「様子を見に行ったり声をかける」(13.5%)、「間口の除雪」(13.3%)となっている。一方、「特に何もしていない」は、64歳以下は69.2%、65歳以上は53.6%となっている。



◆ 悩み事の相談相手

(複数回答)

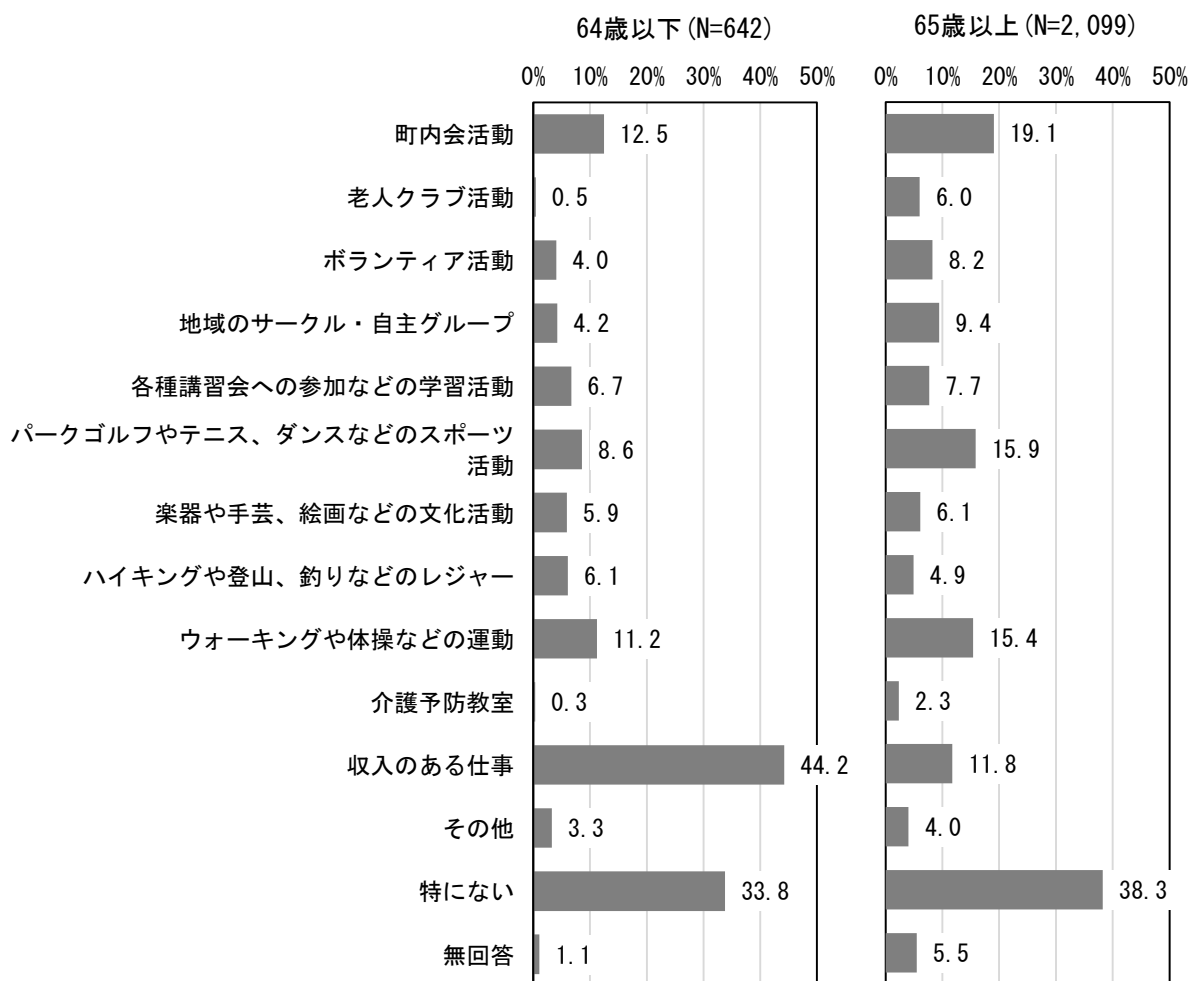
悩み事の相談相手についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「配偶者（夫又は妻）」が最も多く、64歳以下は54.5%、65歳以上は49.6%となっている。次いで、64歳以下は「友人・知人」(51.6%)、「親」(25.7%)となっており、65歳以上は「子(子の配偶者を含む)」(45.2%)、「友人・知人」(29.5%)となっている。



◆ 社会参加の状況について

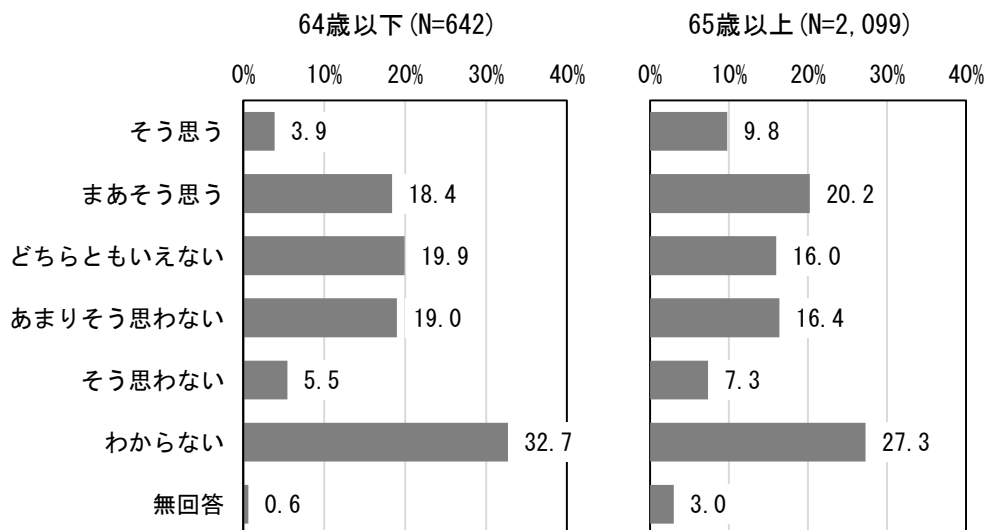
(複数回答)

社会参加の内容（社会参加活動や仕事など）についてたずねたところ、64歳以下は「収入のある仕事」（44.2%）が最も多く、次いで、「町内会活動」（12.5%）、「ウォーキングや体操などの運動」（11.2%）となっており、65歳以上は「町内会活動」（19.1%）が最も多く、次いで、「パークゴルフやテニス、ダンスなどのスポーツ活動」（15.9%）、「ウォーキングや体操などの運動」（15.4%）となっている。一方、「特にない」は、64歳以下は33.8%、65歳以上は38.3%となっている。



◆ 積極的に社会参加できる機会があるか

札幌市は、高齢者が積極的に社会参加できる機会が十分にあると思うかをたずねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は22.3%、65歳以上は30.0%となっている。一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、64歳以下は24.5%、65歳以上は23.7%となっている。

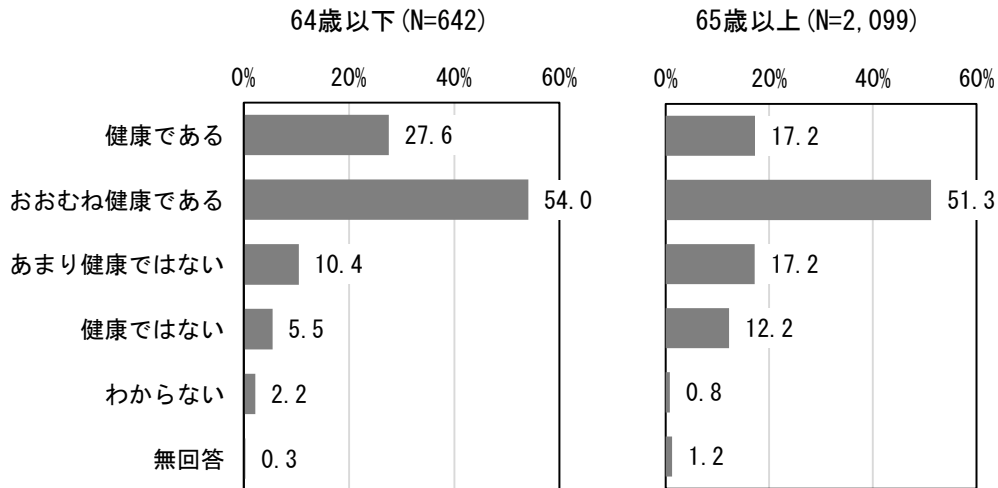


4

心身の状況

◆ 健康だと思うか

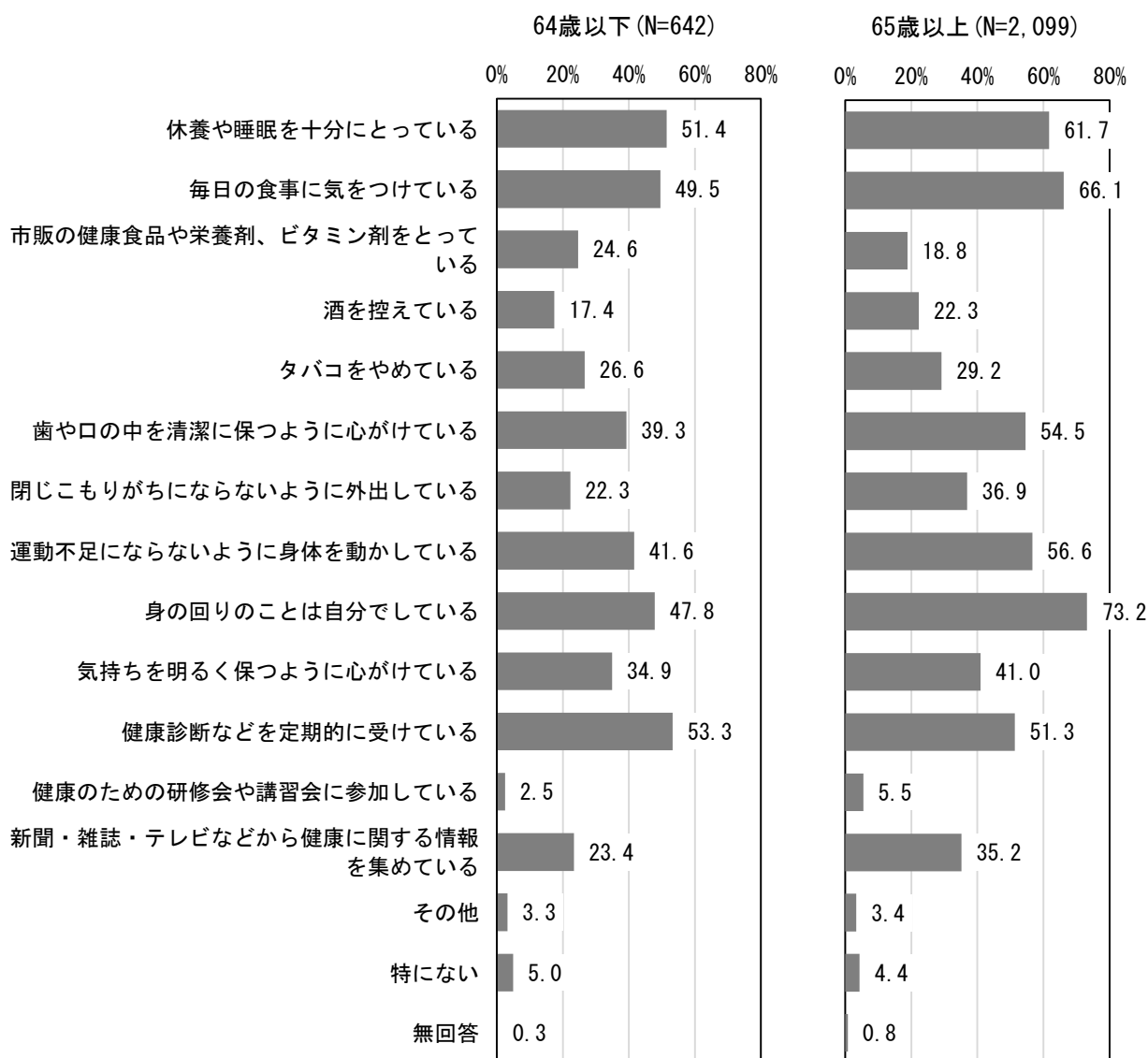
自分が健康だと思うかをたずねたところ、「健康である」「おおむね健康である」を合わせた割合が、64歳以下は81.6%、65歳以上は68.5%と、共に半数を超えている。一方、「あまり健康ではない」「健康ではない」を合わせた割合は、64歳以下は15.9%、65歳以上は29.4%となっている。



◆ 健康維持のため気をつけていること

(複数回答)

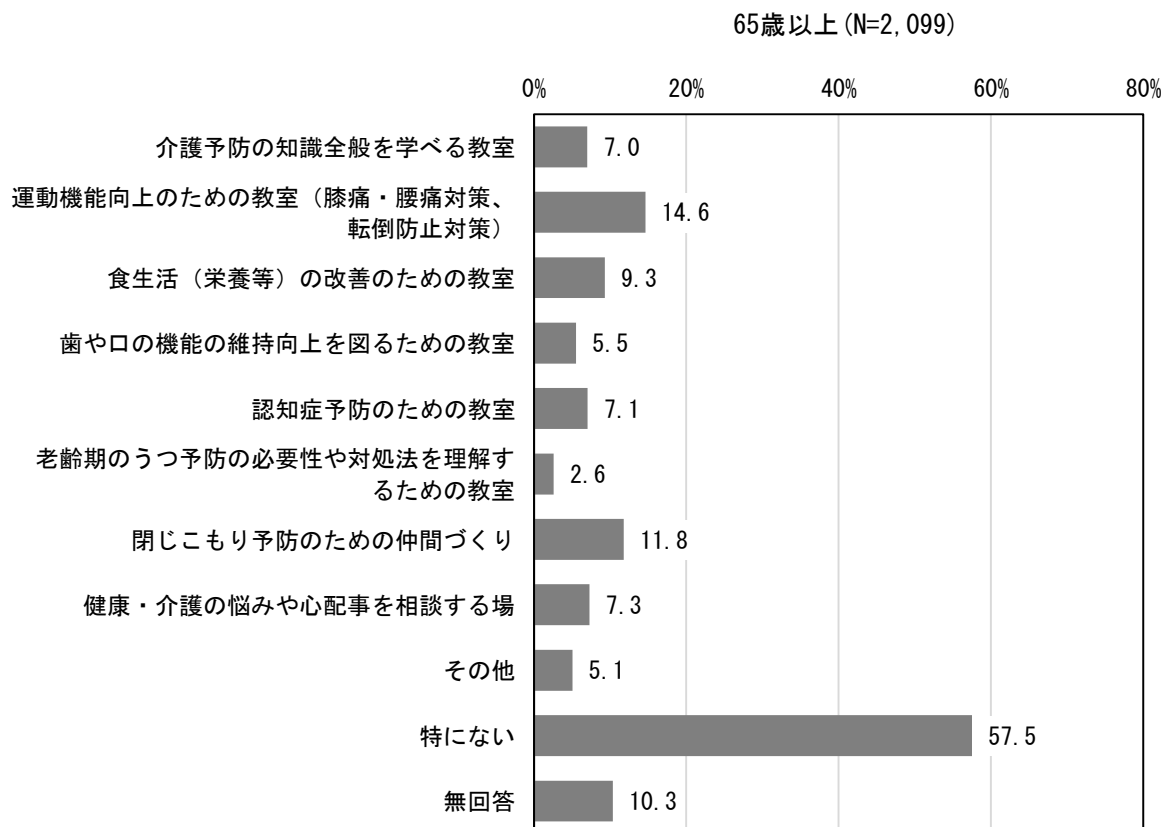
現在、健康維持のために気をつけていることをたずねたところ、64歳以下は「健康診断などを定期的に受けている」(53.3%)が最も多く、次いで、「休養や睡眠を十分にとっている」(51.4%)、「毎日の食事に気をつけている」(49.5%)となっており、65歳以上は「身の回りのことは自分でしている」(73.2%)が最も多く、次いで、「毎日の食事に気をつけている」(66.1%)、「休養や睡眠を十分にとっている」(61.7%)となっている。



◆ 介護予防の取組み【65歳以上のみ】

(複数回答)

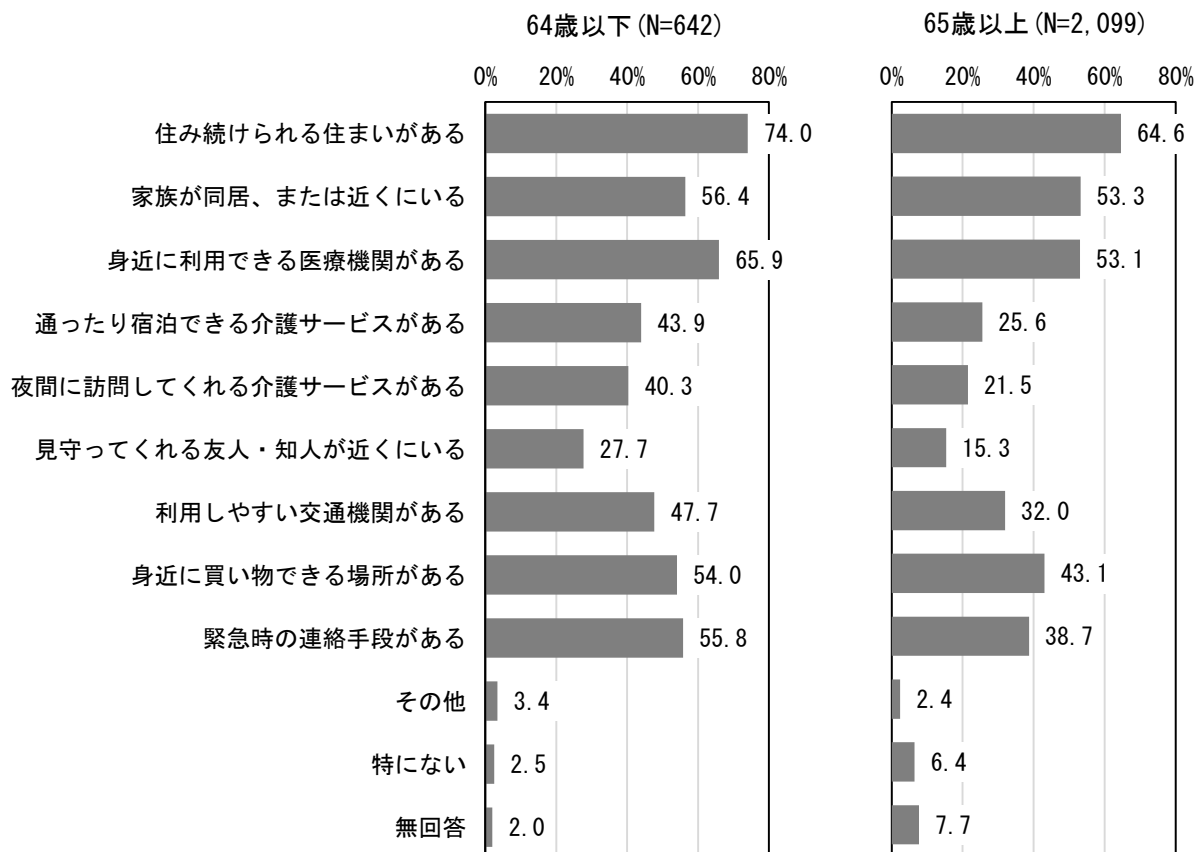
介護予防のために利用しているものについてたずねたところ、「運動機能向上のための教室（膝痛・腰痛対策、転倒防止対策）」(14.6%)が最も多く、次いで、「閉じこもり予防のための仲間づくり」(11.8%)、「食生活（栄養等）の改善のための教室」(9.3%)となっている。一方、「特にない」は57.5%となっている。



◆ 介護が必要になったときに、在宅生活に必要なこと

(複数回答)

介護が必要になったとき、在宅で暮らし続けるためには何が必要かについてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「住み続けられる住まいがある」が最も多く、64歳以下は74.0%、65歳以上は64.6%となっている。次いで、64歳以下は「身近に利用できる医療機関がある」(65.9%)、「家族が同居、または近くにいる」(56.4%)となっており、65歳以上は、「家族が同居、または近くにいる」(53.3%)、「身近に利用できる医療機関がある」(53.1%)となっている。



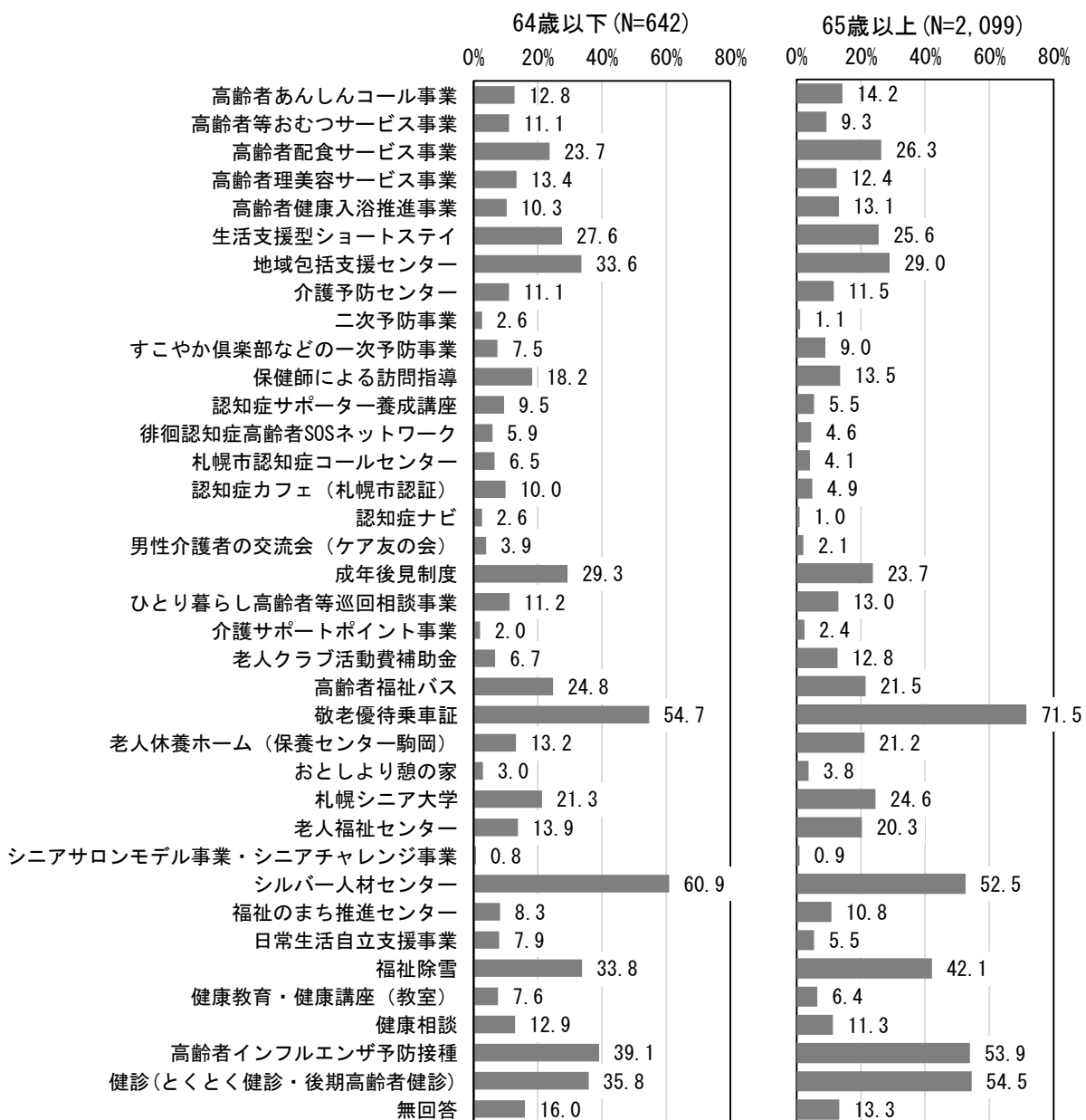
5

保健・福祉施策

◆ 知っている保健・福祉サービス

(複数回答)

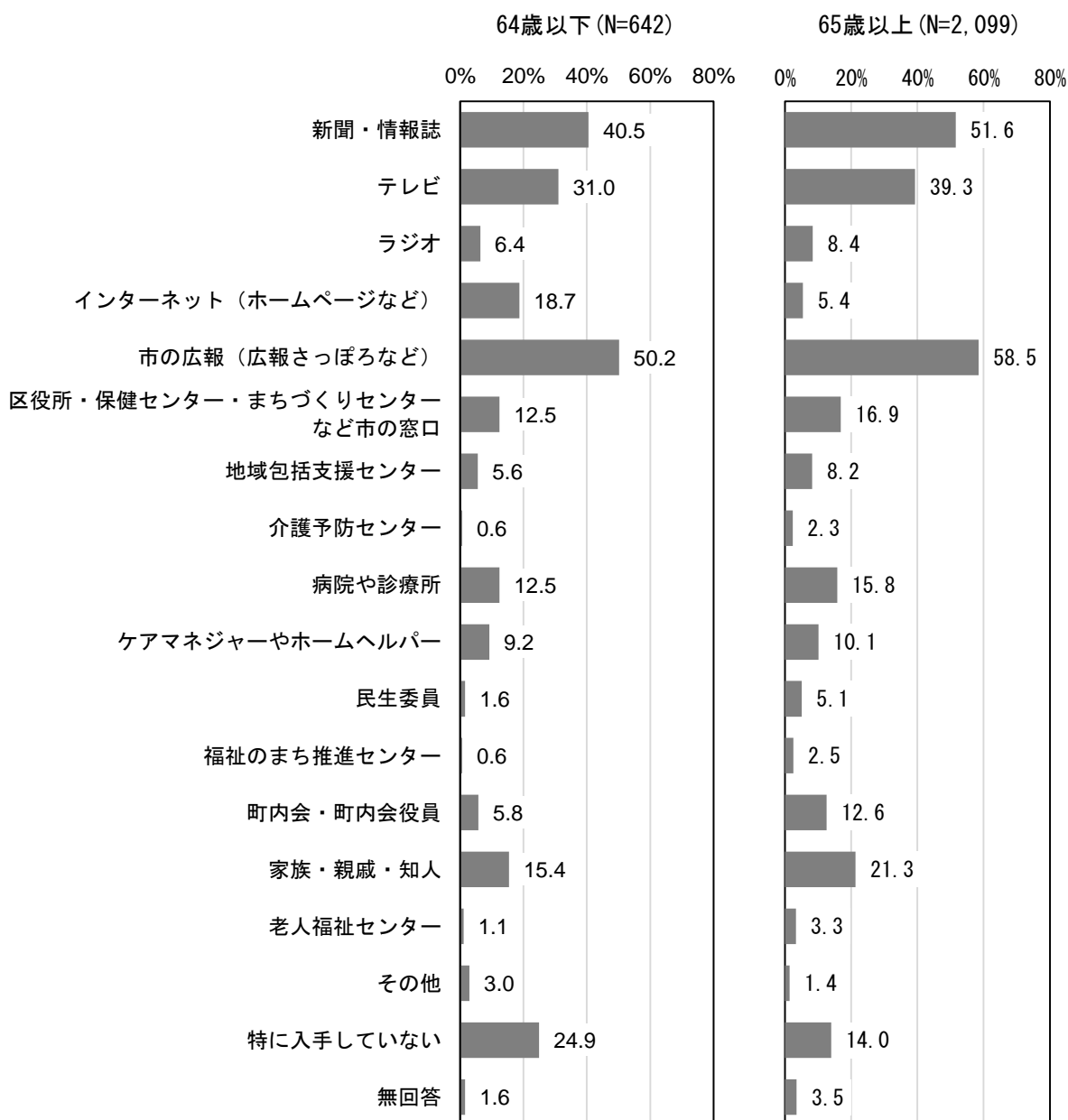
札幌市などが行っている高齢者を主な対象とした保健・福祉サービスなどで知っているものがあるかたずねたところ、64歳以下は「シルバー人材センター」(60.9%)が最も多く、次いで、「敬老優待乗車証」(54.7%)、「高齢者インフルエンザ予防接種」(39.1%)となっており、65歳以上は、「敬老優待乗車証」(71.5%)が最も多く、次いで、「健診(とくとく健診・後期高齢者健診)」(54.5%)、「高齢者インフルエンザ予防接種」(53.9%)となっている。



◆ 情報の入手先

(複数回答)

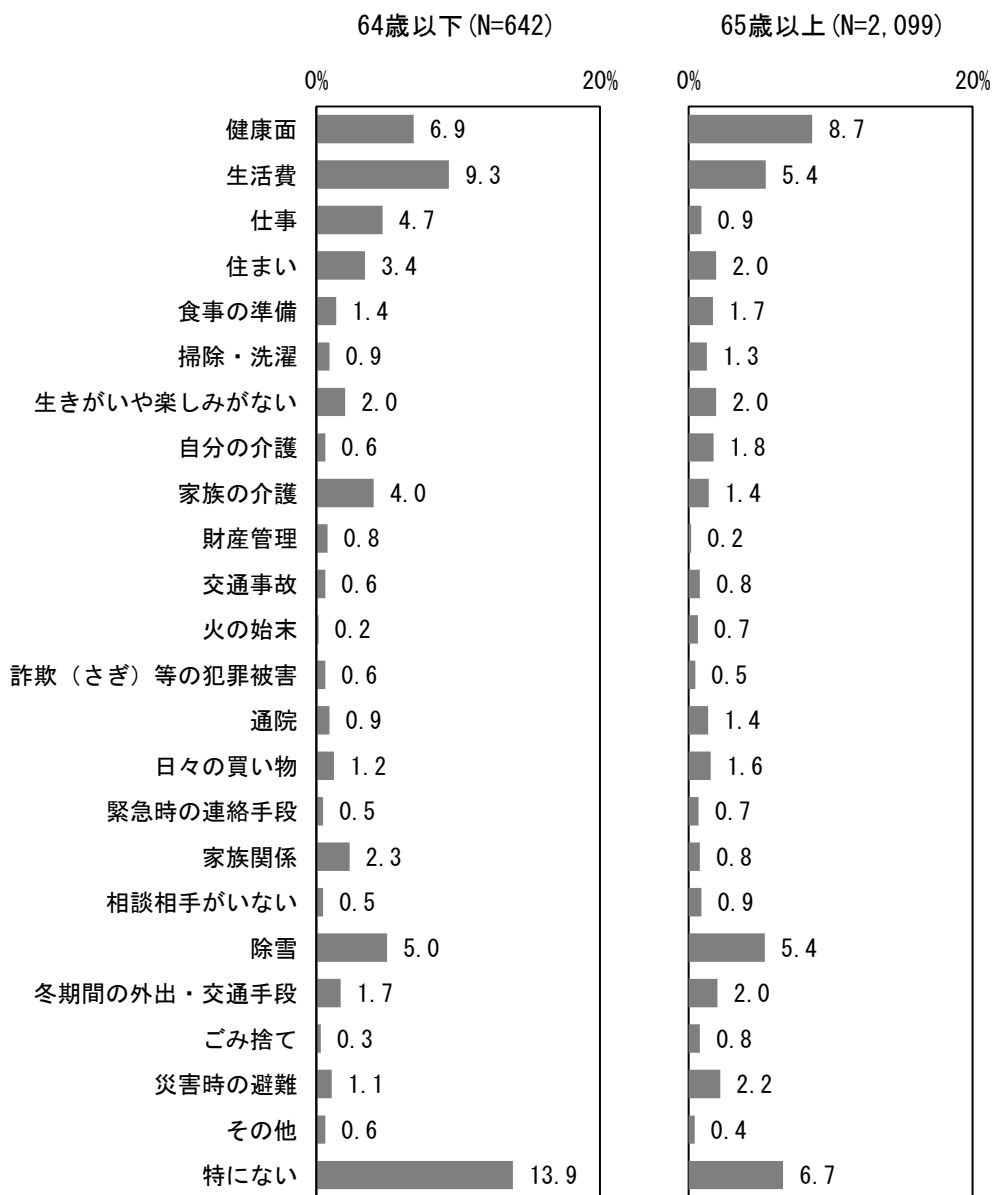
高齢者の保健・福祉サービスに関する情報を主にどこから入手しているかたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「市の広報（広報さっぽろなど）」が最も多く、64歳以下は50.2%、65歳以上は58.5%となっている。次いで、64歳以下は「新聞・情報誌」（40.5%）、「テレビ」（31.0%）となっており、65歳以上も同様に、「新聞・情報誌」（51.6%）、「テレビ」（39.3%）となっている。



◆ 困っていること

(複数回答)

現在困っていることについてたずねたところ、64歳以下は「生活費」(9.3%)が最も多く、次いで、「健康面」(6.9%)、「除雪」(5.0%)となっており、65歳以上は、「健康面」(8.7%)が最も多く、次いで、「生活費」(5.4%)・「除雪」(5.4%)となっている。

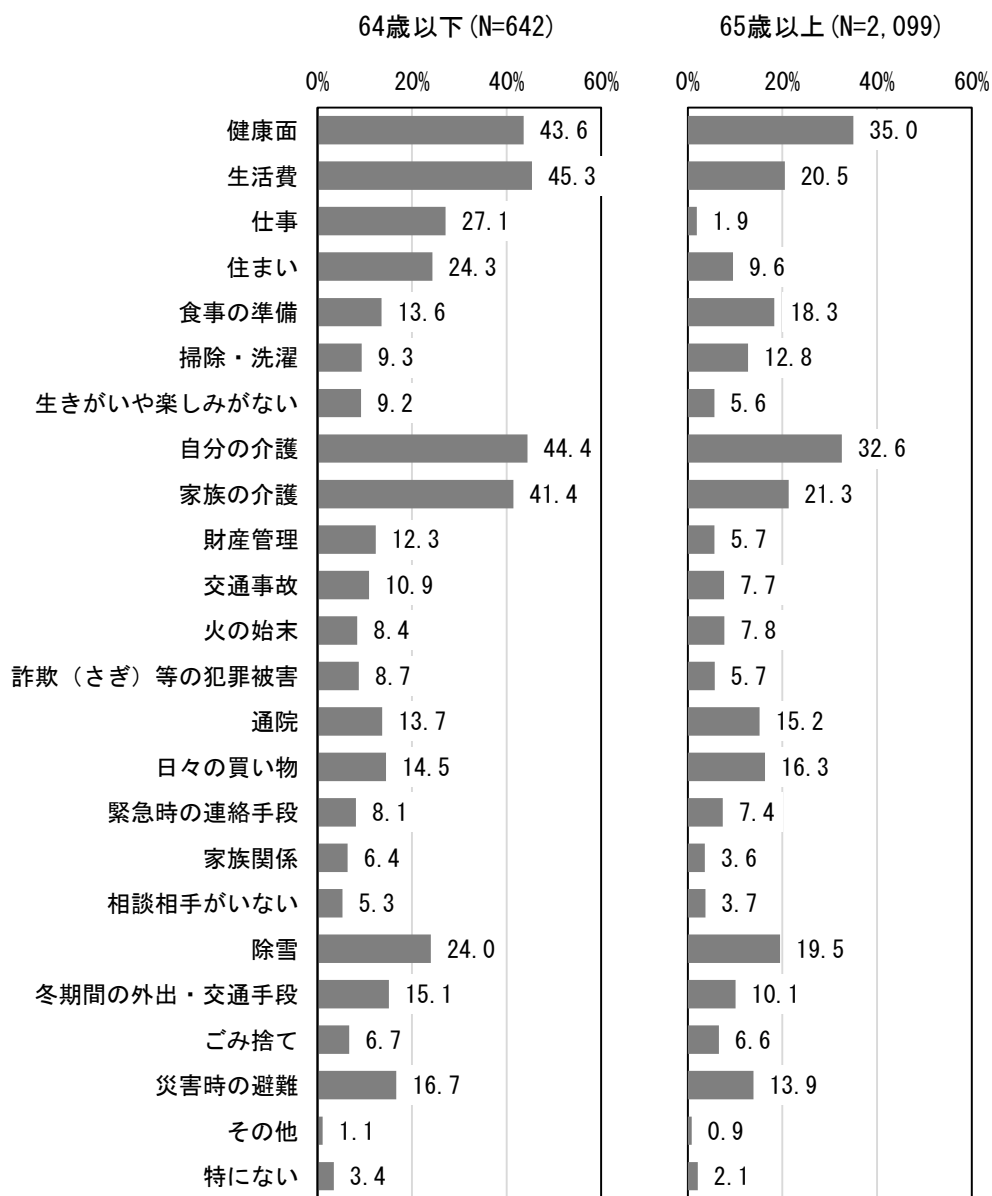


※無回答を除く選択肢を表示

◆ 不安に思うこと

(複数回答)

将来に向け不安に思うことについてたずねたところ、64歳以下は「生活費」(45.3%)が最も多く、次いで、「自分の介護」(44.4%)、「健康面」(43.6%)となっており、65歳以上は、「健康面」(35.0%)が最も多く、次いで、「自分の介護」(32.6%)、「家族の介護」(21.3%)となっている。



※無回答を除く選択肢を表示

◆ 困っていること、不安に思うことの相談先

(複数回答)

困っていることや不安に思うことの相談先についてたずねたところ、64歳以下・65歳以上共に「家族・親戚・知人」が最も多く、64歳以下は54.0%、65歳以上は53.5%となっている。次いで、64歳以下は「区役所や保健センターなど札幌市の窓口」(25.5%)、「病院や診療所」(13.6%)となっており、65歳以上も同様に、「区役所や保健センターなど札幌市の窓口」(29.4%)、「病院や診療所」(21.4%)となっている。

